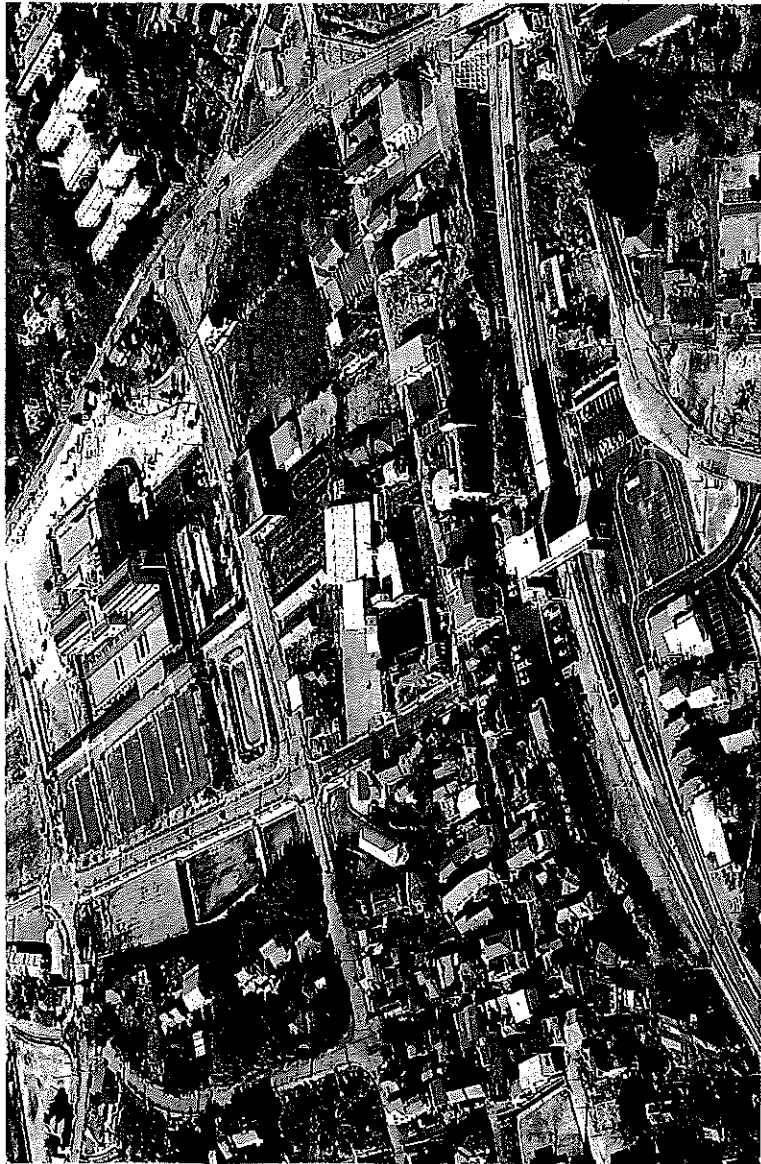


大熊の一部避難解除

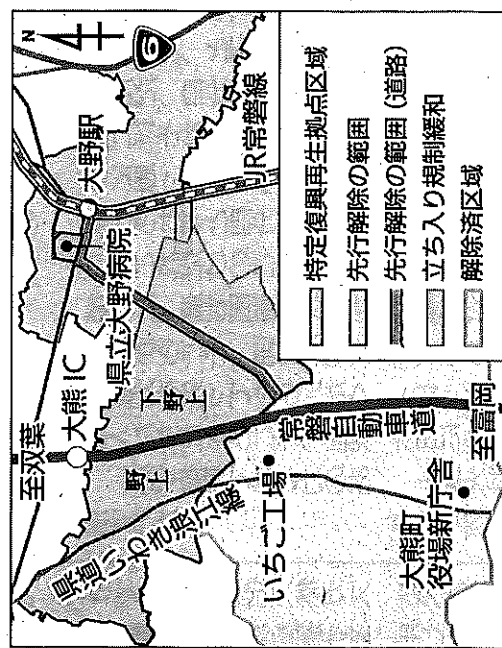
大野駅周辺など 住民らの利便性向上



解除を待つ大熊町のJR大野駅(中央下)の周辺。中央上は県立大野病院。2月21日、中目新聞社へりから

政府は五日前警時、大熊町のJR常磐線大野駅周辺など、東京電力福島第一原発事故に伴う帰還困難区域の特定復興再生拠点区域(復興拠点)の一部を先行解除。同町の避難指示解除は昨年四月の大川原地区などに続き二回目。復興拠点内の下野上・野上地区など一部は日中の立ち入りが自由になる。十四日の常磐線の全線運転再開に合わせ、駅の利用を可能とするのが目的で、住民や除染、復旧復興関係者の利便性が向上する。(2・24・25面に関連記事)

避難指示解除の範囲は、約四・二キロと大野駅から大川原地区までを結ぶ町道(一部国道)約二・三キロ。駅舎や線路を含め計二十八



キロ、駅東口から六国道につながる町道と大野病院周辺の道が許可証なしで走行可能になる。ただし、路に面した家屋など避難指示は維持されない解除となる。

緩和区域は、下野地区と野上地区など一部地域約二百九十で、日中の立ち入り自由だが宿泊はできない。

十四日のJR常磐線の全線運転再開に合わせ、約九年ぶりに大野駅が利用できるようになる。町は町役場や書公営住宅のある大

大野駅周辺など再開発へ

大熊町 交流施設やホテル整備

一部地域の避難指示が解除された大熊町は二〇二二(令和四)年春の特定復興再生拠点区域全域の解除を目指すとともに、JR常磐線大野駅東西口周辺などを再開発し、古里再生を本格化させたい考えだ。

町は、旧大熊町復興対策センター(オファイスセンター)などの周辺に、産業交流施設やビジネスホテル、賃貸住宅、大型ホール、アーカイブ施設、産業団地などを整備する計画だ。

画。用地買収を進め、夏ごろから国買による家賃解体に着手。更地にした上で施設を順次整備する。

町は、すでに駅周辺の地権者ら約百四十人と用地交渉中で、建物の調査を進めている。ただ、県外や県内の遠方に避難している町民が多く、調査が思うように進まないのが実情だ。

特定復興再生拠点内の他地区にも荒廃した家屋が目立つが、再開発エリアと状況は同じで、帰還を待つ町民からは三年後の

域解除は実現できるかと不安の声も出る。

また、帰還困難区内で中間貯蔵施設の設けや、復興拠点から外れて土地の用途がまわらぬまま、帰還しにくいエリア(巨地(しるじ)区)が、町の面積の三割を占める。巨地区が解消されなければ、帰還を望む町民受け入れ切れないとられ、町は引き続き日も早い対応を国に求めている。

地区と大野駅を結ぶ料の生活循環入を運行する。県外など遠に避難し、運転免許の無い高齢者の帰りが容易になる。廃炉関係者や除染などの作業関係者も訪れやすくなる。

解除、緩和を巡って、住民から空き巣などの防犯対策を求める声が多く上がった。町内内の主要道、交差点に防犯カメラを約四十台設置。二〇二〇(令和二)年度には増設をめた設置箇所の見直しなどを計画している。警察など関係機関

と連携した見守りの強化に取り組む。放射線不安対策として追加除染を適宜実施するほか、大野駅に町内の線量を示すモニターやモニターポストを設置する。個人線量計の貸し出しなども行う。

◇ ◇

一 目現在、町の住民登録数は三千八百二十六世帯二万二千八百七十七人。このうち帰還困難区域に住所がある人は三千六百二十六世帯九千八百六十人で、全人口の約96%。昨年四月に大川原地区(旧居住制限区域)と中屋敷地

区(旧避難指示解除準備区域)の避難指示が解除され、町内居住者は百五十六人となっている。

富岡町は10日解除

一部地域

富岡町の特定復興再生拠点区域の一部地域は十日前六時に避難指示が解除される。解除範囲は、JR夜ノ森駅につながる県道と町道合わせて約千三百三十区間と鉄道施設区域、駅前駐車場、夜の森地区の桜並木約五百本が含まれる。

【大熊町の全町避難からこれまでの動き】

- ▶ 23年、全町避難開始。田村市総合体育館に町災害対策本部を設置
- ▶ 町会津若松出張所を開設
- ▶ 政府が町全域を警戒区域に指定
- ▶ 町いわき連絡事務所(現いわき出張所)を開設
- ▶ 二本松市に町に中通り連絡事務所を開設
- ▶ 町大川原地区で先行除染を開始
- ▶ 政府が避難区域を買直し、居住制限、避難指示解除準備、帰還困難の3区域に再編
- ▶ 町環地連絡事務所を開設
- ▶ 町大川原連絡事務所を開設し、町中通り連絡事務所を郡山市に移転
- ▶ 政府が帰還困難区域の一部約860世帯を特定復興再生拠点区域(復興拠点)に認定
- ▶ 準備宿泊を開始
- ▶ 政府が居住制限、避難指示解除準備区域の避難指示を10日に解除すると正式決定
- ▶ 政府が居住制限、避難指示解除準備区域の避難指示を解除
- ▶ 復興拠点の一部先行解除について国、県と合意
- ▶ 22年
- ▶ 政府が先行解除を正式決定

大きな

一歩に期待



古里の思い出が詰まったアルバムを見返す土屋さん

駅周辺解除の大熊

常磐線再開 楽しみ

大熊町大川原の一般社団法人職員佐藤亜紀さん(左)は「立ち入り規制の緩和や、十四日の常磐線全線運転再開が楽しみ」と声を弾ませる。

千葉県成田市出身。母が双葉町出身で、原発事故発生後、浜通りの被災地に思いを寄せてきた。縁あって大川原出身の夫(右)と結婚して移住した。「双葉、大熊、どちらの解除も感慨深い」と話す。五日の大野駅周辺な

どの先行解除に合わせ、大熊町下野上と野上両地区などの一部区域は日中の立ち入り自由になる。子どもをもらった大熊の記憶をよみがえらせたいと思っている。「晴れた日は、大野駅や立ち入り規制が緩和される区域を自転車で巡りたい」と希望を膨らませた。

大川原の災害公営住宅に住む大熊町商工会性部長の山本千代子(左)は、町

ん(左)は運転免許を持っていない。原発事故発生前は大野駅周辺で飲食業を営んでいた。現在、大川原と富岡町の間で無料のバスが運行しており、今後は大川原と大野駅の間でもバスが走る。「常磐線の全線再開はありがたい。大野駅から常磐線に乗り、スーパーマーケットがあって飲食店も多い浪江町にも足を運べる」と喜ぶ。

大熊町区長会長の土屋繁男さん(右)は、町

で過ごした思い出が詰まったアルバムを見返す。「解除される範囲は一部だが、町にとっで大きな一歩」と町民の思いを代弁した。

古里の自宅は中間貯蔵施設整備地にある。現在は、いわき市に建てた自宅で妻と二人で暮らす。古里で近所の人とおしゃべりを楽しんでいたり、恋しいと感じる。常磐線の全線再開により、大野駅も再び人が降りるようになる。

土屋さんは「町の復興は始まったばかり。まずは町に足を運び、多くの人に九年間の歩みを感じてほしい」と話した。